



6-1-1 吉田地域

(1) 地域の概要

◆地域の状況

吉田地域は、本市の北部に位置し、周りを山々に囲まれ、河川沿岸や幹線道路沿道の限られた平坦地と主に山地で構成され、旧吉田町の区域にあたります。



◆地域の人口

地域の人口は、2005年国勢調査において約1万2千人で、2000年から0.3%減の横ばいとなっていますが、地域北部では過疎傾向にある地区がみられます。高齢化率は23.4%と全市平均よりも高くなっています。

(2) 緑に関する現況と課題

◆地域の特性

地域の大部分は、山林や農村集落地であり、東部の赤崩、西部の花尾山や雄岳等の山地や、これらの高峰を源とする思川や本名川、稲荷川の溪流など、豊かな自然環境が多く残されています。

また、県の教育・研修施設、吉田支所や吉田多目的屋内運動場、吉田文化体育センターなどの文化・体育施設、輝楽里よしだ館などの交流施設が整備されています。

◆緑の現況

吉田地域の公園等は13箇所あり、一人当たりの公園面積 2.3㎡で本市の平均より低い状況になっており、主な公園等には、吉田多目的屋内運動場、吉田文化体育センターなどがあります。

本地域の緑被率は83.1%で、本市のなかでは高い状況にあり緑に恵まれています。

地域制緑地では、花尾山・雄岳周辺の一団の山林自然環境、牟礼岡・寺山に連なる山林自然環境を有しています。

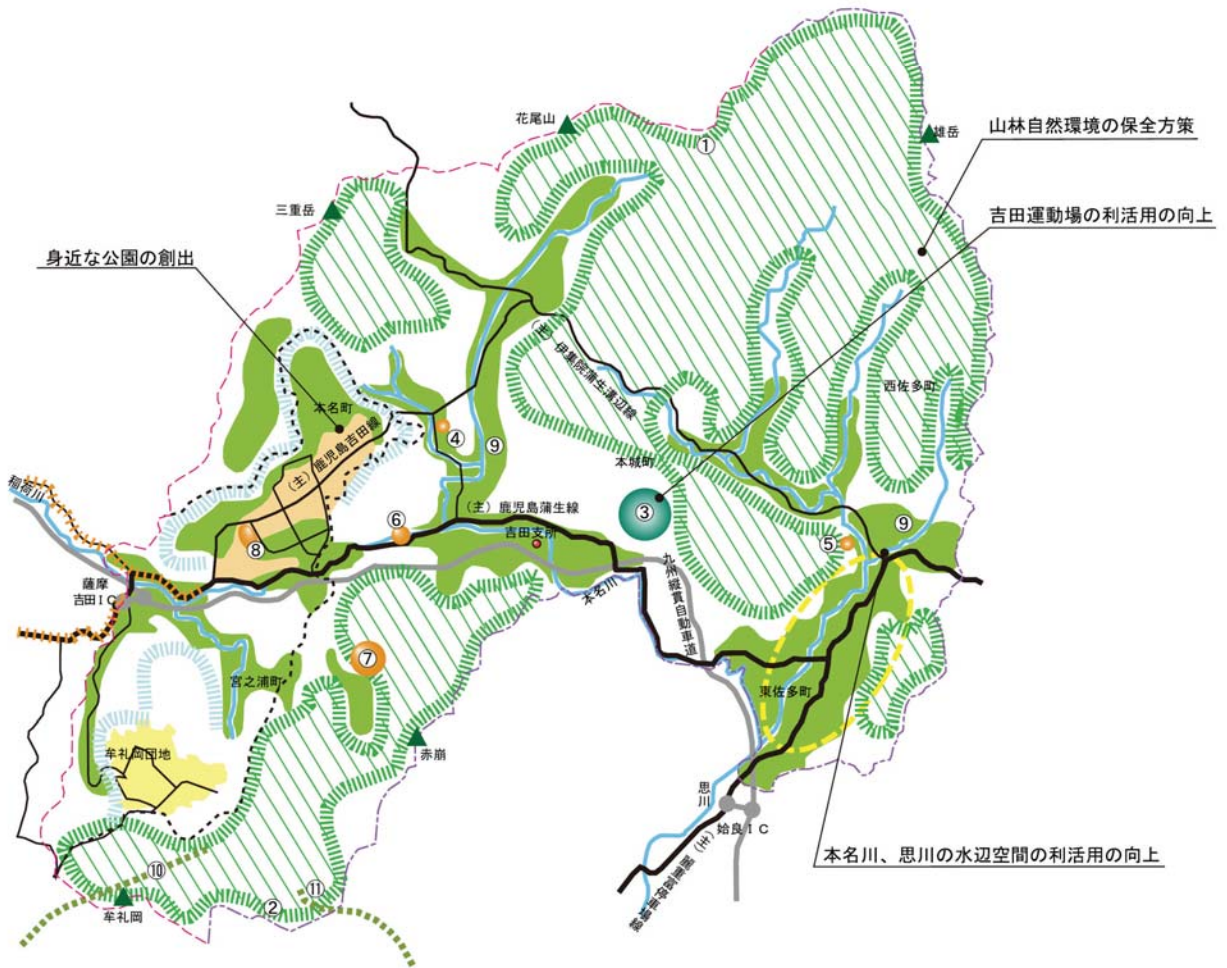
◆緑の課題

市民意識調査において、吉田地域は子供の遊び場が少ないとの意見が多くありました。周辺の緑は多いが身近な公園が不足しており、一人当たりの公園面積も低い状況にあることから、身近な公園を創出していく必要があります。

吉田地区は、高齢化や過疎化が進んでいることから、地域の活性化が望まれています。



● 吉田地域の緑のまちづくりの資源と問題点等の分布図



◆ 地区の資源

自然	① 花尾山・雄岳周辺の一団の山林自然環境 ② 牟礼岡・寺山に連なる山林自然環境
公園緑地	③ 地域の健康づくりの拠点である吉田多目的屋内運動場・吉田文化体育センター
公共的な施設等	④ 八幡神社 ⑤ 金峰神社 ⑥ 農産品の生産販売の拠点・輝楽里よした館 ⑦ 県立青少年研修センター ⑧ 県総合教育センター
その他	⑨ 本名川、思川沿いに広がる田園風景 ⑩ 眺望に優れた牟礼岡自然遊歩道 ⑪ 大口筋白銀坂

凡例

	一団の山林自然環境
	公園等
	公共的な施設等
	住宅団地
	住宅地
	田園集落地
	地区・地域界





(3) 吉田地域の緑に関する方針

◆目標

丘陵の緑に抱かれた田園環境を活かす

「心豊かで活力にみちたやすらぎのある緑のまちづくり」

吉田地域は、丘陵部に位置する牟礼岡住宅団地や県道沿いの市街地、農村集落で構成しています。丘陵の緑や田園環境を活かした、緑のまちづくりを目指します。

◆施策・事業

①「協働により緑を守り育む仕組みの拡充」に関する施策

施策1 市民による緑化活動の推進

○市民との協働による緑化を図り、花いっぱい運動による持続的な都市緑化に努めます。

②「自然環境資源を次世代へ継承」に関する施策

施策5 シンボル拠点となる緑地の保全

○赤崩や花尾山、雄岳等の河川上流域では、山林自然環境を保全するとともに、市民が身近に自然とのふれあいを深める場として有効活用を図ります。

③「鹿児島らしい公園緑地を目指して機能の充実」に関する施策

施策10 緑の拠点となる公園の再整備促進

○吉田運動場については、緑のレクリエーション拠点として、有効活用を促進し、スポーツ・レクリエーションの振興を図ります。

④「身近な緑の育成・創出」に関する施策

施策12 身近な公園・広場の創出

○子供の遊び場や地域住民等とのふれあいの場となる、地域に密着した公園等の整備を推進します。

○民有地を借上げるなど地域の状況に応じた公園整備を推進します。

○旧吉田小学校跡地は、地域住民に開放されており、環境学習などの有効利用を促進します。

施策14 水と緑のネットワークづくり

○本名川や思川等の葦原が残る環境を、身近に水辺が感じられる空間として保全・活用します。



● 吉田地域の緑の方針図

“丘陵の緑に抱かれた田園環境を活かす「心豊かで活力にみちたやすらぎのある緑のまちづくり」”

